

教育実習を終えて

文化情報学研究所 文化情報学専攻 佐藤 千紘

私は、新潟県の私立の高等学校と市立の中学校で2週間ずつ教育実習を行った。担当教科は、高校1、2年生と中学3年生の数学である。実習先での私の体験をいくつか紹介する。

まず、教育実習で得た充実感である。最も嬉しかったことは、授業後の生徒の質問である。質問対応をすることで、ちゃんと授業を聞いてくれていたと安心した。加えて、私を信頼していなければ、聞きに来ることではない。そして、その質問が授業の改善に繋がった。

また、授業以外での生徒との関わりも多かった。1つは、部活動の指導を先生から頼まれたことである。私の所属していた吹奏楽部で、放課後だけでなく土日も面倒を見て欲しいとお願いされた。他にも、行事の手伝いをして欲しい、休み時間にお話ししたいなどの生徒の声もとても嬉しかった。総じて、実習生も先生と同様の立場で見られていると感じた。

次に、教育実習での苦勞や困難である。高校では、研究授業での失敗をあげる。実習生約15人の中で、教頭先生や校長先生を含む30人前後の先生が見学に来られた。そのため、焦って普段の授業ができなかった。悔しさが残り、担当の先生に直談判をして授業数を2個増やしてもらった。この経験から、指導案や緊張なども含めた細かい準備が必要だと実感した。加えて、生徒への発問や授業形態、ICTの活用等の授業の工夫が大切であることも学んだ。

中学校では、注意することの難しさを学んだ。丁度部活動の大会が開かれており、先生が多く学校を離れていた。そのため、私が自習監督を任された。最初は順調だったものの、途中で生徒がトランプをしてしまう場面が見られた。結果、他のクラスの先生が助けてくれたが、私個人では何も指導できなかった。そこから、生徒との関わり方について、褒めるだけでなく、注意もできるメリハリがある方がクラスはまとまり、良い先生と呼ばれると感じた。

続いて、教育実習に必要な心構えである。まず、体調管理と規則正しい生活が重要である。大学生と先生との1日は全く異なる。実習中は、授業準備、授業見学、部活動など疲労が常に溜まる。よって、実習に集中するために体力が必要になる。

また、アニメやTikTokなど最近の流行を調べておく役立つ。理由としては、生徒との年齢が近いこともあるが、コミュニケーションが取りやすく、会話に困らないからである。

最後に、私の目指す先生像についてである。私は生徒の立場に関わることが大切であると考えている。その中で、自己満足ではなく生徒が楽しく理解してくれる授業を目指したい。

先生とは、思春期の生徒に影響を与え、一緒に成長していくものである。私は、毎日学び、引き出しを増やすことが大事であると思う。現在、私は教職科目の数学に追加して情報を履修している。また、大学院での研究に加え、一般企業に就職して社会人としてのルール学びたい。結果として、先生になった時の視野の広さを確保したい。最終的には、子供たちに勉強をわかりやすく教えると共に、勉強以外でも多くのことを伝えたい。